

短期予報解説資料 2026年1月19日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 前線を伴う低気圧が日本海を東北東進。前線や低気圧近傍では、1時間10mm前後の降水を解析。500hPa 5100m以下で -42°C 以下の寒気を伴う寒冷渦が沿海州付近を東進。寒冷渦を回る5160m付近の正渦度極大域に対応した低気圧が日本海北部を北上。北日本を中心に、3時間3cm前後の降雪を観測。
- ② 南西諸島付近では、フィリピンの東の台風第1号の影響による北東風と大陸の高気圧の張り出しによる北寄りの風が収束し、1時間30mm前後の降水を解析。高気圧が日本の東を東南東に移動。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線を伴う日本海の低気圧は、20日朝までに急速に発達しながら北海道東方海上へ進み、前線は、本州を通過する。1項①の日本海北部の低気圧は、発達しながら北海道付近を南下し、20日夜までに不明瞭化する。1項①の沿海州付近の寒冷渦は、20日夜にかけて北海道地方を通過し千島近海へ進む。20日は前線と低気圧が通過し、1項②の日本の東の高気圧が日本のはるか東へ移動するため、日本付近は冬型の気圧配置に移行する。日本海北部の低気圧や冬型の気圧配置の影響で、降雪が強まり、非常に強い風が吹き、大しけとなる所がある。北日本では20日にかけて、降雪による交通障害、着雪、なだれに注意。全国的に20日にかけて、強風、風雪、高波に注意し、北～東日本日本海側では20日は、暴風雪・高波に警戒・注意。日本海北部の低気圧や上空の強い寒気の影響で、大気の状態が不安定となる。北海道地方では20日にかけて、落雷、突風に注意。
- ② 日本付近は、21日は強い冬型の気圧配置となり、北日本には -15°C 前後、東～西日本には -12°C 前後の平年より $5\sim 10^{\circ}\text{C}$ 前後低い下層寒気が流入、日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が発生し、22日頃にかけて、山陰を指向する。強い冬型の気圧配置やJPCZの影響で北～西日本日本海側を中心に降雪が強まり、強い風が吹き、しける所がある。また、平地や太平洋側でも大雪となる所がある。北～西日本日本海側を中心に21日は、降雪による交通障害に注意・警戒し、着雪、なだれに注意。全国的に21日は、強風、風雪、高波に注意。JPCZや上空の強い寒気の影響で大気の状態が不安定となる可能性がある。東～西日本では21日は、落雷、突風、降ひょうに留意。
- ③ 1項②の地上の収束は、19日は次第に南下し、南西諸島から遠ざかる。南西諸島では20日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

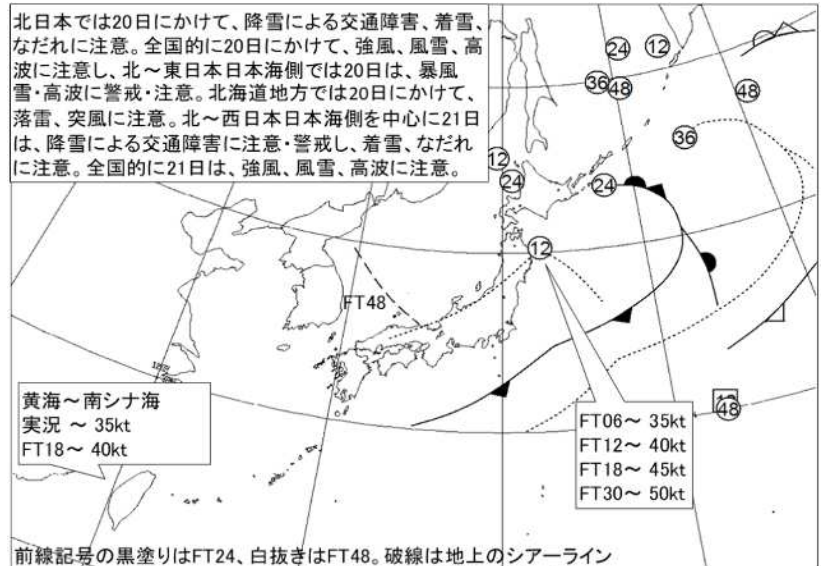
総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：北海道・東北50、北陸30、関東甲信・中国20、近畿15cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道6、東北・北陸・沖縄5、近畿・中国・九州北部・奄美4、伊豆諸島・九州南部3m。
- ④ 大潮(明日まで)：大潮の時期。北海道地方と北陸地方では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「大雪に関する全般気象情報」を17時頃発表予定。



主要じょう乱解説図